

第三者評価結果

事業所名：ポピンズナーサリースクールあざみ野

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-① 【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a

<コメント>

・全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて本社にて策定されており、年度初めに園長および各クラスで内容を確認している。
 ・全体的な計画を踏まえて各クラスにて、子どもの成長と一人ひとりの個性に応じた保育を行うためのカリキュラムを作成しており、家庭との連携を重視しながら、子どもの発達過程に必要な配慮や援助を実施できるよう取り組んでいる。これらの計画と実践は、継続的な改善と評価を通じて、質の高い保育サービス提供に寄与しており、年度末会議において全体的な見直しが行われている。

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-① 【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a

<コメント>

・室内環境の快適性と衛生を維持するために複数の対策を実施している。常時行われる換気と温度湿度の管理に加え、午睡時には採光と音環境も考慮し、適切な明るさと静かな環境を提供している。日々の点検、消毒作業、寝具や午睡用タオルの定期的な交換などの衛生管理を徹底している。
 ・家具や遊具は素材を考慮し、子どもたちの遊びや学びを促す配置に工夫を凝らしている。また、リラックスできるスヌーザールームの設置や、各クラスに応じた食事スペースの整備、広場の利用などによって心地よく過ごせるよう配慮されている。午睡前はオルゴール音楽を用いた睡眠導入、手洗い場やトイレの日々の清掃と安全配慮などによって、明るく清潔な環境が整っている。

<p>A-1-(2)-② 【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

・保育者は、一人ひとりの子どもの個性を尊重し、思いに寄り添いながら関わるように心がけており、子どもたちが安心して自分の気持ちを表現することができるよう配慮している。表現が困難な子どもに対しては、気持ちを代弁しながら関わりをサポートし、また、常に穏やかな口調で接し、子どもにとって理解しやすい言葉選びを行うように努めている。これらの心得は更衣室に掲示され、職員は出勤時に確認することで、日々の保育に反映できるように取り組んでいる。
 ・子どもたちの言葉づかいについては、日々の保育の中でその都度伝えているほか、絵本やクイズ形式なども取り入れ、わかりやすく伝えるように工夫をしている。

<p>A-1-(2)-③ 【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

・子ども一人ひとりの発達段階に合わせた個別配慮を行い、基本的な生活習慣が自然と身につくよう援助している。乳児期から自分で挑戦することを促し、適切な声かけを行うとともに子どもたちの自発的な意欲を重視し、急かすことなく、行動の達成感や喜びを一緒に感じることを大切にしている。また、保護者の希望にも耳を傾け、相談しながら進めているため、保護者との良好な関係を保ちつつ、子どもたちが自立した行動を促す環境を整えている。
 ・靴箱やロッカーの扉は2歳後半から自分で開閉できるよう指導しており、周囲を注意深く見て丁寧に閉めるよう伝え、日常の習慣として定着するよう配慮している。また、「いやいや期」に対応し、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添いながら適切な対応を心がけている。
 ・子どもの生活リズムにも配慮し状況に応じて休息を取るなど、快適に一日を過ごせるよう援助している。また、栄養士による食育活動、看護師から衛生や健康に関する教育などを通じて、生活習慣の大切さを伝えている。

<p>【A5】 A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育室内は手の届く場所に年齢に応じた絵本や玩具を配置しており、子どもたちの発達や興味に合わせてこれらを定期的に入れ替えている。近隣にある広々とした公園では、自然豊かな環境を利用して歩行練習や探索活動を行い、広場や遊具のある場所など活動に応じて場所を変えながら遊ぶようにしている。さらに、季節の草花を見たり昆虫を捕まえては一日観察し、その後自然に戻すといった活動を通して、子どもたちに自然との触れ合いや生き物への敬意を伝えている。 ・天候に合わせた柔軟なプログラムも提供しており、室内での鉄棒やトランポリン、サーキットなどの運動遊びなども行っているが、保護者からは屋外活動が少ないと感じるとの声も聞かれており課題としている。また、粘土や廃材などを使用した製作活動も行っており、子どもたちが自分で考えたり選んだり自由な表現を楽しめるよう援助している。子どもたちの作品は掲示し、年度末には一年間の作品集として持ち帰り家庭でも楽しんでもらえるように配慮している。 	
<p>【A6】 A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園直後は子どもと保護者の不安軽減に配慮し、育休復帰時期をうかがい逆算して慣らし保育を行い、子どもの状況に合わせて保護者と相談しながら少しずつ保育時間を増やし通常の保育時間に慣れるようにしている。 ・子どもたちが長時間無理なく過ごせるよう、月齢に合わせた活動内容と環境の調整に努め、少しずつ遊びを楽しめるよう配慮しており、配置基準以上に職員を配置することで一人ひとりの子どもと深く関わり、愛着関係の形成を支援している。発達過程に応じた環境設定と保育内容には常に心を配り、月齢に応じて1歳児とも活動を共にするなどの工夫をしている。また、連絡帳を用いた日々のやり取りや、送迎時の保護者との交流を大切にし、子どもたちの発達段階を正確に把握し、保護者と協力して子どもたちを見守っていく体制を整えている。 	
<p>【A7】 A-1-(2)-⑥ 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳児からの入園も多いことから、入園直後は0歳児と同様に慣らし保育を行い、丁寧に関わるようにしている。子どもたちの自主性を重視し、常にその状況を共有しながら援助しており、子どもたちが安全かつ自由に探索できるような環境を整え、保育者は積極的に子どもたちの遊びに加わり、必要に応じて感情の代弁を行いながら遊び方の獲得を支援している。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルに際しては、双方の気持ちに寄り添いながらわかりやすく言葉で伝えるようにしており、絵本を通じてなど繰り返し言葉を伝えて学べるようにしている。 ・異年齢の子どもたちとの交流も奨励しており、栄養士や看護師を含む様々な大人との関わりを通じて、子どもたちが日々成長できるよう援助している。2歳児クラスまでは、家庭との日々の連絡帳を通じた密なやり取りを行い、保育内容や子どもの発達について共有できるように取り組んでいる。 	
<p>【A8】 A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児は年齢に応じた活動を基本としているが、散歩などで一緒に遊ぶ機会を設けたり、運動会や夏祭りなどの行事では一緒に練習を行ったり、協力し合い達成感を味わうことができるように援助している。運動会では、子どもたちの自発的な提案ややりたいことを取り入れながら準備を進め、特に年長児は開始の挨拶など、リーダーシップを発揮する機会も設けられており、子どもたちの社会性や自立心を育成する取り組みが行われている。 ・今年度の3歳児クラスでは新入園児が多く、保育者が遊びの中で園生活などについて伝えており、少しずつ集団として落ち着いて過ごせるようになってきている。4歳児クラスは友だちとの関わり、集団遊びを楽しんでおり、5歳児は主体性を発揮し、団結力を見せながら活動する姿が見られている。幼児クラスは連絡帳を使用していないため、毎日クラスの活動を写真とともに掲示して保護者に見てもらえるようにしている。 	
<p>【A9】 A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定のニーズを持つ子どもたちのために仕切りを使用して落ち着いて過ごせるような工夫をしたり、スノーザールームを使用してクールダウンできるようにするなど、個々の特性に合わせた環境整備を行い、全ての子どもが落ち着いて過ごせるよう配慮している。個別の指導計画とクラスの計画は連動しており、基本的にはクラス全体と同様の活動ができるよう配慮を行っている。子ども同士が共に学び合い成長できるように一緒に過ごす時間を大切に、運動会などの行事にも一緒に参加できるように計画している。 ・保護者との連携を重視し、毎日の連絡帳や定期的な面談を通して子どもの様子を共有し、安心感を持って保育園生活を送れるよう支援している。療育センターとの定期的な情報共有、職員の研修参加、保育参観の受け付けや動画を通じた情報提供を行い、保育の質の向上と保護者の理解を深める取り組みを進めている。 	

<p>【A10】 A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・月週案に長時間保育の内容を取り入れており、子どもたちが落ち着いてゆったりと過ごせるような環境の工夫を行っている。異年齢合同保育では、安全性を考慮しながら日中とは異なる玩具を提供するなどして楽しく過ごせるよう配慮し、18:30以降にお迎えの子どもには保護者の選択で補食を、19:00以降は夕食を提供している。 ・子どもの受け入れからお迎えまでの一日の様子は視診表に記録し、翌日も振り返れるようにしており、口頭での情報交換も行うようにしている。早番だけでなく全体で子どもに関する情報を共有し、円滑な保育を実施できるよう努めている。保育者の交代時にはしっかりと引き継ぎを行い、保護者へ確実に情報伝達をできるようにしており、また、連絡帳や登降園時のコミュニケーションを通じて、保護者と子どもたちが安心感を持って過ごせるよう配慮している。 	
<p>【A11】 A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を意識した指導計画のもと、就学に対して期待が持てるような活動や声がけを保育に取り入れている。就学に向けて年長児クラスの子どもたちは冬頃から午睡時間を短縮し、年長児専用の活動時間を確保しており、集中力を高める活動や外遊びで充実した時間を過ごせるよう援助している。 ・小学校との交流として、ビデオレターで校舎や教室を紹介してもらう機会があったほか、保護者懇談会では小学生の兄妹を持つ保護者からの話を聞き、進学準備について情報交換を行っている。また、SDGsの取り組みとして小学校にて残野菜からクレヨンづくりを行っており、小学生がクレヨンを届けてくれるなどの機会があった。小学校の見学や1年生との交流など具体的な取り組みは今後の課題としている。 	
<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理マニュアルに基づき子どもたちの健康状態を管理し、体調不良や怪我があった場合は速やかに保護者に通知し、翌日の登園時には帰宅後の様子確認に努めている。また、お迎えの際はマニュアルにとらわれず、子ども一人ひとりの状態を観察することを大切に考え、保護者とのコミュニケーションを図るように努めている。 ・保健指導は看護師を中心に行っており、0歳児と1歳児は保育の中で一緒に手洗いをしながら伝え、2歳児からは手洗いや咳エチケットを教えるなど、本社が作成した計画書を基に指導を進めている。保健指導後の記録は玄関に掲示して保護者に伝え、感染症が流行した際にはリアルタイムで情報を提供するよう努めている。 ・見学会や入園説明会ではSIDS（乳幼児突然死症候群）の知識と対策を保護者に伝え、職員に向けては研修を実施し午睡チェックの方法についても徹底している。下痢や嘔吐の処理に対するシミュレーションを行い、予備セットの準備をして迅速に対応できるようにしているほか、慣らし保育、季節ごとの安全確認、熱中症予防などについてマニュアルの読み合わせや、勉強会を通じて新しい知識の習得を促している。 	
<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・内科健診や歯科健診の結果を記録し職員間で共有するとともに、健診の結果は保護者にも通知している。健診前には保護者から医師への質問を集めて、専門的なアドバイスを受けられるよう配慮している。健診の結果を踏まえ、保健計画を策定し、看護師による歯磨きや手洗いの指導を定期的実施している。また、子どもの既往症や接種歴は入園時に保護者から得た情報をシステムに入力し、変更があれば更新を保護者に依頼している。 ・SDGsの取り組みを取り入れて以降、捉え方の変化を実感し、常に価値観の更新を心がけており、外出が制限された際には、ケガの増加に対するの応急処置研修も強化し、本社の看護師研修で学んだ内容を職員に伝える取り組みを行った。また、インフルエンザ予防接種は施設内で実施可能とし、嘱託医師との連携を密に取り、迅速な電話対応もできるようにしている。 	
<p>【A14】 A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応ガイドラインに基づき、除去食マニュアルを制定し、子どもの状況に応じた食事対応を行っている。慢性疾患のある子どもには、保護者や医師と連携して適切な対応を取り、アレルギーを持つ子どもの保護者とは月に一度の面談を実施し、家庭での状況を踏まえた上での対策を行っている。アレルギー児への食事は別テーブルや色違いの食器類を使い、保育者が同席することで安全に努めるとともに孤立感を感じさせないように配慮している。新入職員は除去食対応研修を受け、園内でも定期的に学び直しの機会を設けている。他の子どもたちや保護者にはアレルギーへの理解を促し、持ち込みがないよう周知徹底に努めている。 	

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
<p>【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。</p>	a
<コメント>	
<p>・子どもが自分で考え、楽しんで食事をとれるよう4歳と5歳児向けにセミバイキング形式の食事を提供し必要に応じて量の調整も行っており、この取り組みにより残食量が少なくなっているなどの効果が見られている。全クラスで陶器製のオリジナル食器を使い、また、3歳児からはお箸の使用を目指し、まずは遊びの中で取り入れて慣れるように援助している。</p> <p>・月週案に食育活動を取り入れ、栄養士と保育士が連携して年齢に応じた食育活動を各クラスで進めている。乳児クラスは旬の食材に触れてみることからはじめ、幼児クラスでは実際に調理することで食への関心を深めることができるように援助している。また、各クラスにおいて年齢や発達に応じた食具の使い方、姿勢などの食事のマナーについても伝えている。食育活動の様子はニュースレターで報告し、写真付きで玄関に掲示して保護者にも共有している。</p>	
<p>【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。</p>	a
<コメント>	
<p>・本社作成の統一献立を使用し2週サイクルでの提供を行っており、月に一度の郷土料理や多文化料理、季節の行事食も取り入れている。多文化料理や郷土料理では、その内容に合わせた紹介の掲示を行い、行事食では見た目でも楽しめるような盛り付けの工夫をするなど、子どもたちが興味を持ち楽しみにできるように働きかけている。</p> <p>・子どもの体調や発育に合わせて食事の変更や食材の大きさの調整を行っており、職員は食事介助で喫食量や好き嫌いを把握し、給食会議で栄養士と情報を共有し、残食の記録や検食簿を活用して献立や調理に反映できるように取り組んでいる。4歳児と5歳児クラスは給食室から見える場所で食事をし、栄養士が頻繁にクラスを訪れて子どもたちの様子を観察し声をかけるようにしている。衛生管理には各種マニュアルが用意され、毎月、社内栄養士主催の会議で衛生管理や情報共有、研修を実施している。</p>	

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
<p>【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・連絡帳、懇談会、個別面談を通じて保護者と情報交換を行い、子どもの日々の成長や保育の様子などを共有できるよう配慮をしている。週月案は玄関に掲示し、保護者が自由に閲覧できるように配慮しており、毎月発行のニュースレターには写真付きで保育のねらいや目標、保育内容を詳細に記載し保護者の理解と協力が得られるように努めている。写真を用いたドキュメンテーション作成に力を入れて取り組んでおり、保育者の意図や子どもたちの成長をわかりやすく伝える手段として活用している。また、コミュニケーションで必要な対応や記録が求められる事案については、会議議事録や面談シートに記録し、適切な管理を行っている。</p> <p>・懇談会では各クラスにおいて保護者間のコミュニケーションを促進するためにテーマを設けて話し合いが行われており、0歳児のクラスでは、子どもの名前の由来や育児の悩みなどが話題にあがっていることなどが報告されている。</p>	

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
<p>【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。</p>	b
<p><コメント></p>	
<p>・保護者との信頼関係を重視し、送迎時には必ずその日の子どもの様子について口頭でも伝えるようにするなど、日々コミュニケーションを取るよう努めている。行事後の保護者アンケートや面談を通じても保護者からの意見や要望の把握に努めており、必要があればいつでも時間を設けて応接室での面談や土曜日面談、ZOOMを使用するなど、柔軟な対応を行っている。また、関係機関を紹介するなど支援を提供する場合もあり、面談の際には必ず記録を残して共有体制を確立している。保育者は保護者の相談を真摯に傾聴し、内容に応じて適切な回答ができるように施設長や主任、本社スタッフと検討した上で最適な解決策を提供できるように努めている。</p> <p>・コロナ禍において中止していた保育参観、保育参加などについては今後再開を予定している。</p>	

<p>【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・朝の受け入れ時には、視診を行い子どもの様子や健康などについて確認を行い、保護者にも確認を行っている。子どもの日常の着替えや排せつ時には身体の確認を行い、虐待などの兆候を見逃さないよう努めている。虐待が疑われた際の対応フローが確立されており、気になることは速やかに施設長、主任に報告する体制としている。また、発見時には本社を交えた情報共有と対応が行われる。</p> <p>・日頃より保護者とのコミュニケーションを通じて潜在的な原因にも気を配り、丁寧な対応を心がけるとともに、職員は会議や研修を通じて人権と虐待対応フローについての理解を深め、区役所や児童相談所ともいつでも連絡が取れる体制を整えている。マニュアルと対応フローに沿った研修を受け、適切な対応ができるように職員全体で共有し意識を高めている。</p>	

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
<p>【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。</p>	a
<p><コメント></p>	
<p>・各クラスでカリキュラムについて定期的に振り返りと反省を行い、結果だけではなく活動のプロセスにも着目するようにしている。月週案の評価は主任が確認し、必要に応じたアドバイスを反映できるよう取り組んでいる。</p> <p>・全職員は年度初めに目標を設定し、施設長や主任と確認しながら進め、中間面談、自己評価、上長評価を通じて年間を通した振り返りを実施している。日々の評価反省、振り返り、MBOなどを使用しながら一年を過ごし、年度末の保育所の自己評価を作成し、その内容を次年度の課題設定に反映できるようにしている。</p>	